



# 私のひとりごと

## 「診断結果」

昔から、職人は「ケガと弁当は自分持ち」と言われる。それほど技術を覚えるのは大変な事だ、との例えと思われるが、実際はケガも付き物である。私も大工仕事を覚えるのに、誤って手足を刃物で切り、ケガをする度に道具の使い方を体で覚え込んだものである。ただ、私は比較的ケガが少なく、以外にも慎重派だったのかもしれない。

そんな私であるが、この年になり久しぶり？にケガをした。カッターナイフで指先を切ってしまったのである。その時は、瞬間的に「チクッ」としただけで切った事に気付かず、血が噴き出しているのを誰かに言われて驚いたような始末である。慌てて近くにあったビニールテープで巻くが、テープの隙間から血が滴り落ちるのを見て事の大きさに気付いた。とにかく



【皆さまもお体、十分ご自愛ください<m(\_)\_m>】

ティッシュや布切れなどでグルグル巻き、夕方土曜日だったため、市立病院の急患の外来まで走る。幸いに着いたところには血は止まっていた。早速、体温と血圧を計るが、その血圧の数値を見て驚いた。上が 200 を超え、下も 100 を超えていた。もともと高血圧のきらいはあったが、これほど高い数値は初めてである。もはや指先のケガより血圧の方が心配となる。診て頂いた先生からも、健康診断を受けるようにと促された。常々、家内から血圧を計って自己管理するようにと、うるさいくらい言われ続けているが、病院の先生から言われれば本気で心配になってくるものだ。幸い、指の方はレントゲン結果でも異常は無く、日にち薬(注1)で直すしかないね、ということになった。

当日は化膿止めの薬が出ていて、薬待ちの僅かな時間であったが、夜間の救急診察室には色々な人が訪れるのを目にした。風邪など比較的症状の軽い人や、息をするのもしんどそうな人。また、明らかに交通事故と思われる人も運ばれ、オペの格好をした医師たちも慌ただしく動く。被害者の家族と思われる人も駆けつけ、また、加害者と思われる人との顔合わせに、待合室は重苦しい時間が流れた。その待ち時間の間、人には、色々な人生と時間の流れがあるものだと考えさせられた…。私は、自らの不注意でたまたま同じ時間帯・同じ場所に居合わせたわけであるのだが、この待合で目にしたことは人ごとだと言えるのだろうか…。明日は我が身かと深く考えさせられる時間でもあった…。

おかげで指先の方はみるみる良くなり、後日受けた健康診断では異常無し、との結果も出た。早速家内に報告すると、「あんたみたいに異常無しと言われて、いい気になってる人が一番危ないんやで」と強めのお言葉。確かに異常無し、と言われた私は、夜遅くからでも好きなものを食べ、お酒も飲む。病院からもらった健康手帳に一度も血圧の数値を付けることも無く、今ではその手帳すら見当たらない。そんな私を家内は横目で見ながら、「私は何があってもあんたの面倒見んから」と、きつく念押しされる診断結果？が出てしまったのである…。

注1：ひにちぐすり。日にちが経過することが一番の治療法、という意味。

ではまた来月もお会いしましょう。  
今月も最後まで読んでいただき…、

あーがしう  
ございました!!

